

時間は暫し流れ、上機嫌で酔い始めるナコ。
すでに貴方の隣で胸を押し当てるように抱きつきながら、酒を注ぎ、自分でも飲み、楽しげにしている。

ナコ

「ふはぁーっ」

あはっ、ふふ……くふふ」

こんなに楽しい酒は久しぶりじゃあ……ふふ、おぬしいー？
まだ飲むかー？ツマミがいるならもつと作ってもよいぞー？
んー？」

ナコは布越しとはいえ肌が触れ合うのを厭わぬという様子で、いつそ無防備という程に貴方にひつつくように甲斐甲斐しく世話を焼く。

貴方にも随分と酒が回ってきたためか、それとも酒気を帯びた彼女の甘い吐息と、ほんのりと暖かくなってきたナコの体温によるものかなのだろうか。

柔らかく甘い少女の体が触れてくるのに反応して、イチモツがむくりと……反応してしまう。

ナコ

「んう……？なんじゃあ……。

おぬしい、さつきから反応がおかしくないかのう？

ワシが触れておると、たまに身を引いておらぬかあ……んー？

なんじゃあ、やっぱりワシの事が怖いのかー！

ワシは、こんなにお主と酒が飲めてえ……嬉しいというのにいつ！」

《しゆる……ぴと》

（問い詰めようと寄せた体に手が振れ、硬くなってる場所に触れてしまう音）

ナコ

「ふえ……？おぬしい？

ん、ここ……何か入れておるのかの？

何だか、硬いものが手に触れたんじゃが……んう？

また何か食べ物でも溢してしもうたのかあー？

んー、こんな硬いもの、用意しておったかのう……どれどれえ」

《さす……さす》

（イチモツの部位を撫でる音）

ナコ

「んん、変じゃなあ……おぬしい、やっぱり何か隠しておるな？

ここ、触っておると服の上からでもどんどん硬くなっていきおるぞ？

なんじゃあ、こんなに楽しい時間に隠し事をするのかあ？

……ワシは、何だか寂しくなつてしまいそうじゃのう」

ナコの手が硬くなっていく貴方のモノをズボン越しに擦り続ける。

走り続ける甘い刺激に、思わず止めさせようと手を掴もうとした瞬間、くすりという笑い声が貴方の耳に届く。

ナコ

「んっ……くふ、ふふ」 くおん」

冗談、冗談じゃよ」 そんな慌てた顔などせんでも大丈夫じゃって」
楽しくて何時もより多く飲んでしまつてはおるが、意識を怪しくさせる程酔うてはおらぬよ」
だから安心せい……これが何か、ちゃんとか分かつて……触つておるから、のう」
ふー……っ」

ナコ

「……すまんなあ、ふふ」

長い事人に……自分を曝け出せる他人に飢えておつた所に、お主が……こんな優しい気遣いをしてくれたからもんじゃから。

ワシは……、ダメじゃな。共に飲んでおつて、お主が意識してくれてると分かつた時から、妙に体が熱く……疼いてしまつておつての。

情けないとは思いつつも、こうしてお主が反応してくれておるのが、嬉しくて仕方ないんじやよ……」

《さす……さす》

(イチモツの部位を撫でる音、以下背景でなり続けます)

ナコ

「なあ、お主よ？」

……人の子であるお主には、ワシの姿はどう見えておるかのう？

こうして、お主の雄たる場所が、熱く……硬くなつておるのなら、ワシはお主にとって……魅力のある雌に見えておるのじやろうか？

今ここで、こうしてワシが触れておるお主が……そう思つてくれておるのなら、この上ない幸せなのじゃが」

ナコ

「……酒は、足りておるかの、お主？

酔いは……十分体に巡つておるかの？

もし、もしもではあるのじゃが……お主が、アヤカシであるワシに、恐れより興味と色気を感じてくれておるのなら……んっ！」

ナコ

「酒の場の、この場限りの勢いで構わぬから……。

この、孤独に疲れた、自業自得の愚かなキツネに……お主の精を。

……人のぬくもりを、分けてはくれまいか？」

ナコ

「……良い(よい)、のか？ こんな初対面のキツネが、じゃ。

お主に……はしたなく欲情し、お主のマラを……雄々しいイチモツを感じるために口に含み。

ワシの中を……蜜壺の奥の奥まで、お主の白濁した子種で染め抜いて……熱く、熱く、孤独を埋める程に溺れさせて欲しいと願つても、良いの……かの？」

ナコ

「くふ……っ」

お主、良い男じゃなあ……♥ くうん……♥

偶然の出会いとはいえ、お主のような男に出会えたのは、ワシの生きた長い時間の中で……望外の喜び、そのものじゃよ」

……ありがとうのう、お主よ」

例は、今宵一晚……ワシの全部で、お主を満足させる事で果たしてみせるから……の」

《さすり……じいじ……っ、しゅる……》

(チャックに手をかけ、ズボンを脱がす音)

ナコ

「ではお主よ、ワシを……ナコを受け入れてくれた……一夜(いちや)の主様(あるじさま)よ」
今宵一晚(ひとばん)、お主のイチモツに酔い、乱れ……精を啜つて、喘ぎ(あえぎ)、喜び……。
子種で……膣(ちつ)も、外も、この毛も、全て染め上げて欲しいと懇願する……。

この雌狐(めすぎつね)を、どうか、よろしくお願い致します……じゃ」

んっ、ちゅう……ちゅっ、くちゅ、ちゅう……ちゅっ、ちゅっ、ちゅう……んっ、ふわぁ」
くぁおー……んっ♥」